

**令和7年度第3回寝屋川市地域福祉計画
推進委員会 会議要旨**

会議の名称	令和7年度第3回寝屋川市地域福祉計画推進委員会
開催日時	令和7年11月5日（水） 午後2時00分から午後3時30分まで
開催場所	寝屋川市役所議会棟4階 第Ⅰ・Ⅱ会議室
出席委員	岡田委員長、伊与田副委員長、木下委員、河瀬委員、林堂委員、宮本委員、近藤委員、田中委員、朽見委員、鈴木委員、松下委員
欠席委員	乾委員
案件	1 第5次市地域福祉計画の素案について 2 第5次市地域福祉計画に位置付ける事業案について
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
傍聴者の数	1名
所管部署 (事務局)	福祉部 福祉総務課

委員長	次第1 第5次市地域福祉計画の素案について
事務局	次第1について説明（資料1、資料1-1）
委員長	方向性に変更はないが、より分かりやすい表記や整合性を図った修正だ。
委員	<p>障害児に対する支援の方向性が見えにくい。障害児に関する支援をしている名称（あかつき・ひばり園）がなく、施策なども掲載されておらず、市としての方向性が不明確だ。</p> <p>関係機関との連携は記載されているが、市の根本的な役割が明確ではない。障害児に対する支援のあり方を明記すべきだ。</p> <p>また、聴覚障害者団体から防災に対するネットワークがないとの意見があった。福祉避難所同士の連絡会もなく、防災の連携が取れていないのではないか。</p>
事務局	<p>障害児支援については、上位計画に紐づく事業として整理しているが見えにくい部分があるため記載方法を再検討する。</p> <p>市の役割については、地域への丸投げではなく市が主導する部分も見せるような表現を検討したい。</p> <p>防災に関するネットワークについては、地域協働協議会に自主防災組織が含まれていることを踏まえ、地域の課題等の共有については地域協働協議会を中心に進めて頂いている。</p> <p>また、要配慮者への対応については、全ての市民の命をつなぐかを第一に考え、見守り活動など、地域コミュニティによる共助をベースに進めている。</p>

委員	<p>14 ページの「福祉サービスの適正化」の追記部分について、利用者側に対する強い書きぶりを感じるが、何か背景があるのか。</p>
事務局	<p>従前は法人への監査だけの項目だったが、やはり生活保護の適正利用などについても記載が必要ではないかという内部での検討があり、こうした文言に修正したものだ。</p> <p>福祉全般において適正な利用、適正な提供を目指していくというところで、特に何かあった訳ではない。</p>
委員長	<p>福祉サービスの適正利用については以前からあった表記だが、一般的には権利擁護と結びついた内容であるので、委員の意見のように何事かと思うかもしれないが、内容としては何か脅かすようなものではないということだ。</p>
委員長	<p>次第2 第5次市地域福祉計画に位置付ける事業案について</p>
事務局	<p>次第2について説明（資料2、資料3）</p>
委員	<p>7 ページの成年後見制度の担当課が高齢介護室となっているが、障害福祉課も関わるのではないか。</p> <p>また、8 ページの虐待防止ネットワークの担当が障害福祉課となっているが、高齢者虐待も対応が必要であり高齢介護室も関わるのではないか。</p>
事務局	<p>高齢介護室は権利擁護をメインに掲げていたため、2-（1）（P7 権利擁護と生活支援の推進）に記載しており、一方、障害福祉課は虐待防止センター等の機能を主として記載していたた</p>

委員	<p>め、2 - (2) (P 8 権利や暴力等の防止に向けた取組の推進) に記載するような割り振りになっている。</p> <p>実際は高齢介護室、障害福祉課の双方が両方の業務(成年後見制度も虐待防止ネットワーク)を行っており、それぞれ窓口がある。書きぶりや位置づけを再検討したいと思う。</p> <p>18 ページからの部分になるが、地域の担い手不足が深刻で、見守り活動等の担い手が高齢化している。子育てサロンや子ども食堂等の居場所を開いても利用者が少なく、あるいはゼロの日もある。ポスター掲示以外にも何か効果的な啓発方法はないだろうか。</p>
委員長	<p>アウトリーチや担い手不足はどこの市も問題となっている。行政だけでなく地域コミュニティや知恵などを借りなければ届いていけないので、地域の実情に合わせたシステムづくりをしていかなければならないだろう。</p>
委員	<p>意見に同感だ。サロンや子ども食堂、学校とも関りを持ちつつ、親子でクッキングなど開催し若い保護者にも出来るだけ校区の活動に参加してもらっているが、来てはくれるが一緒に取り組むというところまではいかない。</p> <p>担い手が70代、80代中心であり、先行きに不安を感じている。若い世代に関心を持ってもらうための良い案があれば知りたい。</p>
委員長	<p>50代・60代、またその下の40代も含め、現役世代が「70代・80代の人生の先輩方に地域活動の負担を負わせてよいのか」という問題をどれだけ切実に理解しているかということ、十分には浸透していないのが現状だ。これには生活に余裕がないなどの</p>

	<p>要因もあるが、地域に対して無関心のまま生活し続けていることや地域住民だけでなく行政側からも啓発を強化しなければ地域の担い手は疲弊してしまうだろう。</p> <p>また、関係機関として「学校」は地域の大きな資源だ。新たな負担を依頼することは難しいが、学級懇談や授業参観など保護者が集まる機会は多く存在するので、そうした場を活用し子どもの様子だけでなく地域の現状についても理解を促す施策があれば、保護者の意識も変わるのではないか。</p> <p>学校を情報の回路として活用することは、教育委員会の理解があれば不可能ではないはずだが、教育部局との連携には課題が残っているかもしれない。</p>
委員	<p>11 ページの「元気アップ介護予防ポイント事業」と 13 ページの「元気アップ体操」は関連しているのか。</p>
事務局	<p>「元気アップ」という同様の名称が含まれているが、両者は異なる事業だ。「元気アップ介護予防ポイント事業」は、福祉の介護施設等においてボランティア活動を行った人に対しポイントを付与する制度だ。一方、「元気アップ体操事業」は、各地域において自主的なボランティア活動として体操に取り組む事業となる。</p>
委員	<p>ボランティアなどの活動も参加する人は 70、80 代が多く、いまひとつ周知されていないのではないかと感じている。市内で何か活動したいと思っている人はいるはずなのでもっと地域のコミュニティなどに声をかけていかなければと感じる。</p> <p>香里園の商店街などで早朝に若年層がたむろしており、地域で守るとい活動が薄くなっているのではないかと思う。ただ、そうした若者もゴミ拾い活動をしているのを見ると手伝ってく</p>

<p>委員長</p>	<p>れたりもするので良い面もあるが、地域でのつながりや助け合う寝屋川市を目指すのであれば、施策を考えていかなければならないのではないか。</p> <p>ポイントについては予算化もしているものであり、是非啓発を進め活用していただきたいと思う。</p> <p>若者が騒いでいる事象については現代社会の有り様でもあると思うが、そうしたパワーをどうやって別の方向にもっていけるか、そうした啓発や気づきの機会をどう提供するかは、大人が考えなければならない部分だ。学校や行政を含め、地域の大人一人ひとりが次世代の担い手を育てていく立場だという意識を上げて行かなければならないだろう。</p> <p>本計画は「共生」による地域づくりを掲げているため、これを大きな旗印として進めるべきであり、何か特定の役割を持つ人だけに活動を依存する時代ではない。この地域福祉計画を通じてそうした住民意識の醸成を図っていかなければならないと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>サロン等の活動に男性が参加しない。将棋などは来るがその他は女性が圧倒的に多い。男性が集まるような成功例はないか。</p> <p>孤独死の問題について、自治会の見守り対象が65歳以上となっているが、60代前半での孤独死も発生している。見守り対象の年齢や緊急連絡先の把握を見直す必要がある。</p>
<p>委員長</p>	<p>男性の参加はどこも課題だが、DXやオンライン等の活用も含め、つながりを作る方策を考える必要がある</p>

委員	<p>23 ページの「個別避難計画」について、担い手不足の中でどのように作成を進めるのか。モデルケースをつくったとの話も聞いているが、今後どうしていくのか。</p>
事務局	<p>現在は庁内で検討中であり、まずは障害の重い方などコアな対象を中心に作成を進める予定だ。件数は少ないがモデルケースを作成しつつ検討しているところだ。</p>
委員	<p>国は地域調整会議や担い手の明記を求めているが非常に難しいと思う。むしろ、社協で今やっている地域全体で逃げる「地域防災まるごと座談会」のような形の方が現実的ではないか。障害者にとっても、個別支援への期待と不安があるため、地域全体での避難を考えた方がスムーズではないか。地域防災まるごと座談会が既に地域調整会議を担えていると思う。</p>
委員長	<p>地域全体で支えるという視点は重要であり、一つの切り口だろう。</p>
事務局	<p>今後のスケジュールについて案内</p> <p style="text-align: center;">閉会</p>